



8月度の
の御書

てんじゅうきょうじゅほうもん 「転重軽受法門」

ちまちに消えて……
地獄のような苦しみがた

意味

消えて
地獄の苦しきまぼつと

御文

(御書新版1356ページ 御書全集1000ページ)

題目で、心の中のカーテンを開けよう！

こんにちは！ ライオン博士のキング君だよ！ 夏の太陽ってキラキラして、まぶしいよね～。ボクは朝、目が覚めたら、元気がいっぱいカーテンを「シャツ」って開けるのが大好きなんだ！ そうすると、暗い部屋が「パツ」と明るくなるよね。太陽を浴びたボクの顔も「ニコツ」って笑顔になっちゃうんだ。

今日学ぶ御文は、真っ暗な場所でも光がさせば「パツ」明るくなるように、どんな悩みも信心根本に立ち向かえば、必ず乗り越えることができると教えられているよ。

仏法では、ボクたちの生命は永遠に続いていると教えている。生まれては死んで、また生まれては死んで……。こうして続いてきた生命には、いろんな思い出が刻まれているんだ。それは、自分がそれまでにしてきた良いことも、悪いことも。そんなこと言われたって覚えていないよね？ だけど、たしかに刻まれていて、それを「宿業」というんだ。

悪い宿業のせいで悩んだり、逆に良い宿業のおかげで幸せになったり、というように、宿業によってボクたちの人生が決まると言えるかもしれない。

だけど、身に覚えのない、目に見えない宿業のせいで人生が左右されるなんて、納得いかないよね。仏法は、そんなボクたちが宿業に負けられないために説かれた教えなんだ。

ボクたちが毎日唱えているお題目には、宿業の苦しみを、たちまちに消す力があるよ。だから日蓮大聖人は、今どんなに苦しい状況のようにいたとしても、運命だから、宿業だからって、あきらめなくて良いと教えられている。

お題目をあげて一生けんめいに努力しているのに、予想もなかった試練が訪れることが、あるかもしれない。そんな時、この御文を思い出してほしいんだ。信心をつらぬいていけば、どんな悩みも必ず乗り越えられる。これから先も、宿業にふり回されず、自分らしく生きぬいていけるんだ。

池田先生は「題目は、悩みの雲をつきぬけて心に太陽を輝かせる響きです」と語られているよ。

もし君が悩んでいて暗やみの中に入ってしまった時は、いっしょにお題目をあげてくれる家族や友だちに相談してみて。心の中のカーテンを「シャツ」って開けるのを、きっと手伝ってくれるはずだよ。